

用語集

□あ行

○う蝕、う歯（うしょく、うし）

一般的にいう「むし歯」のこと。歯の硬組織の表面が細菌の酸産生により破壊され、実質欠損を形成する歯の疾患。う蝕のある歯を「う歯」という。

○オーラルフレイル

口腔機能の軽微な衰えや食の偏りのこと。むせや食べこぼしの増加、噛むことの出来ない食品の増加、滑舌の低下等が含まれる。

□か行

○かかりつけ歯科医

患者さんのライフサイクルに沿って、口と歯に関する保健・医療・福祉を提供し、地域に密着したいくつかの必要な役割を果たすことができる歯科医師のこと。

○学齢期

学校に就学して教育を受けることが適切とされる年齢のこと。本計画においては、小学校1年生（6歳）から高校卒業年次（18歳）までの期間とする。

○QOL

「Quality Of Life（クオリティ・オブ・ライフ）」の略称。生きがいや満足度を表す。

○健康格差

疾病、健康状態、医療アクセスにおける集団特異的な違い（差）のこと。

○健康寿命

日常的に介護を必要とせず、自立して健康的な日常生活を送ることができる期間のこと。

○口腔（こうくう）

口の中の空所で、鼻腔や咽頭に連なる部分。口の中の歯茎、顎、口蓋、頬、口腔粘膜、唾液腺などを含めて使う。

○口腔機能

「咀嚼（かみ砕く）・嚥下（飲み込む）・発音・唾液の分泌など」に関わり、その役割を大別すれば、「1. 食べる、2. 話す」となる。人が社会のなかで健康な生活を営むための原点ともいうべき機能のこと。

○口腔ケア

口腔に対して行うケアのこと。口腔内の歯や粘膜、舌などの汚れを取り除く器質的口腔ケアと口腔機能の維持・向上を目的とした機能的口腔ケアから成り立っている。

○誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）

唾液や食べ物、あるいは胃液などと一緒に細菌を気道に誤って吸引すること（誤嚥）により発症する肺炎のこと。高齢者など摂食嚥下機能が低下している方がかかりやすい。

□さ行

○歯周疾患

歯周組織におこる病気の総称で、歯肉炎と歯周病に大別される。

○歯周病

歯肉炎が進行し、歯周病原細菌の感染によって、炎症が深部の歯根膜および歯槽骨に波及した状態。近年、歯周病と糖尿病などの全身疾患との関係が深い事が明らかになっている。

○歯肉炎

歯肉に限局した炎症性の疾患。一般的に歯みがきなどの清掃が不十分であると、歯垢（しこう）や歯石が歯や口腔粘膜の表面に付着し、発症する。歯肉の充血、腫れ、出血などがみられるが自覚症状は少ない。

○歯 胚（しはい）

歯と歯の周囲の組織のもとになる細胞の集まりのこと。乳歯と永久歯は、胎児期から出生後にかけて時期は異なるが形成される。

用語集

○食育

様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てること。

○受動喫煙

喫煙により生じた副流煙（たばこの先から出る煙）、呼出煙（喫煙者が吐き出した煙）を発生源とする、有害物質を含む環境たばこ煙（ETS）に曝露され、それを吸入すること。

○摂食嚥下（せっしょくえんげ）

摂食とは食物を摂取する行動、嚥下は食物の塊を口腔から食道を通り胃へと送り込む一連の課程のこと。

○早期低体重児

分娩時期より早い妊娠22週以降37週未満で出生する2500g未満の児のこと。

○咀嚼（そしゃく）

食べ物を口に取り込んだ後、噛み取り、細かくつぶし、唾液と混ぜ合わせ、飲み込みやすい状態にするまでの過程のこと。

□た行

○多職種連携

質の高いケア・医療を提供するために、異なった専門的背景をもつ専門職が、共有した目標に向けて共に働くこと。

○地域包括ケア

重度な要介護状態等になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・生活支援が一体的に提供されること。

□ハ行

○不正咬合（ふせいこうごう）

歯の噛み合わせが正しい噛み合わせではない状態のこと。

○フッ化物・フッ化物応用

フッ素を含む化合物のこと。歯科領域ではう蝕（むし歯）予防に使用される。局所応用（フッ化物配合歯磨き剤、フッ化物洗口、フッ化物歯面塗布など）と全身応用（水道水フッ素適正化など）がある。

○フレイル

加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、心身の脆弱性が出現した状態のこと。体重減少、疲れやすさの自覚、歩行速度の低下、握力の低下、身体活動量の低下の内、3項目以上該当するとフレイルと判断する。適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態である。

○ヘルスプロモーション

自らの健康を決定づける要因について、自らよりよくコントロールできるようにしていくこと。